

## &lt; 資 料 &gt;

## 岡山県産ブロイラー生産成績(2003)

森 尚之・荒金知宏・佐野 通・松馬定子・奥田宏健

Production results of The Broiler chicken made in Okayama pref.

Hisashi MORI・Tomohiro ARAKANE・Tooru SANÔ・Sadako MATUBA and Kouken OKUDA

## 要 約

育種改良が飛躍的に進む中で、岡山県産ブロイラーの生産成績の現状を把握するため、第27~36回岡山県ブロイラー共励会(1994~2003)の出品成績を用いて、出荷生体重、出荷日齢、出荷率、飼料要求率、生産指数および規格品率について分析を行った。

- 1 出荷日齢は、1994年55.1日から2003年53.1日までに2日間有意( $p<0.01$ )に短縮された。
  - 2 出荷生体重および出荷率は、各年度とも2,970gおよび96.2%前後で推移していた。
  - 3 飼料要求率は1994年2.19から2003年2.08、生産指数は1994年235.5から2003年259.6まで、ともに有意( $p<0.01$ )な向上が認められた。
  - 4 規格品率は、1994年98.7から2003年99.1まで有意( $p<0.01$ )な向上が認められた。
- 出荷日齢、出荷生体重および飼料要求率の改善状況から、2003年は1994年に比較してブロイラーコマーシャルの育種改良による増体速度の向上、並びに飼料設計の見直しによる飼料要求率の改善が図られ、生産指数の向上が進んだと推察された。

キーワード：ブロイラー、出荷日齢、出荷生体重、出荷率、飼料要求率、生産指数、規格品率

## 緒 言

鶏肉の国内生産量は、1988年度以降減少傾向で推移してきたが、2001年度以降増加傾向で推移し、2002年度は1,229千羽が生産されている。そして、消費量は年間170万台で概ね安定的に消費されている。岡山県は、2,200千羽(2003年2月1日付け)が飼養されており全国第11位の生産県である<sup>1)</sup>。

ブロイラーの育種改良が飛躍的に進む中で、岡山県産ブロイラーの生産成績の現状を把握するため、岡山県ブロイラー共励会の出品成績を用いてブロイラー生産能力の現状を検討した。

## 材料及び方法

## 1 対象鶏群

岡山県養鶏協会が主催した岡山県ブロイラー共励会の第27~36回(1994~2003)に岡山県ブロイラー共励会要領<sup>2)</sup>に準じて出品された鶏群とし、出品鶏群基準を表1に示した。各年度の出品点数は、表2に示した。

## 2 調査項目

出品調書のデータから、次の調査項目を算出した。

- (1) 出荷日齢 (日) : 出荷月日 - 餌付け月日(ただし、餌付け日を0日として起算する。)
- (2) 出荷生体重 (g) : 出荷総体重 ÷ 出荷羽数
- (3) 出荷率 (%) : 出荷羽数 ÷ 餌付け羽数
- (4) 飼料要求率 : 飼料摂取量 ÷ 出荷総体重
- (5) 生産指数 :  $PS = (\text{出荷率} \times \text{出荷生体重}) \div (\text{集荷日齢} \times \text{飼料要求率}) \times 100$
- (6) 規格品率 (%) : 総出荷羽数に対する規格品羽数の割合で評価する。

表1 出品鶏群基準

<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内で餌付けされた鶏群</li> <li>・出品者が餌付けから出荷まで飼養した鶏群</li> <li>・各年度の10月1日～12月末日に食鳥処理場へ出荷された鶏群</li> <li>・県内食鶏処理場に出荷された鶏群</li> <li>・一出荷単位が1000羽以上の鶏群</li> </ul>
<p>目的：出品をとおして生産技術の向上と県産ブロイラーの品質改善を図り、販路および消費の拡大に資すること</p>

表2 出品点数

年度	出品点数	チャンプブロイラー	チャンプ割合 (%)
1994	100	90	90
1995	101	99	98
1996	101	96	95
1997	115	114	99
1998	107	106	99
1999	124	124	100
2000	120	120	100
2001	120	120	100
2002	120	120	100
2003	121	113	93

\*チャンプブロイラー：出品調書の出品銘柄がチャンプブロイラーと記載された点数

3 統計処理

岡山県ブロイラー共励会の出品調書データは、分散分析および回帰分析により統計処理を行った。

結 果

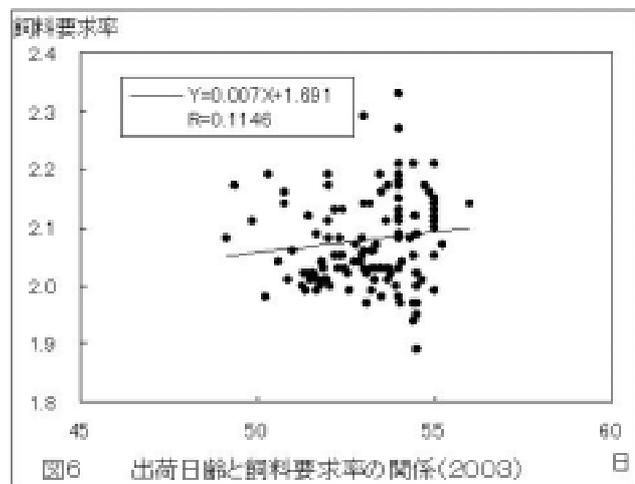
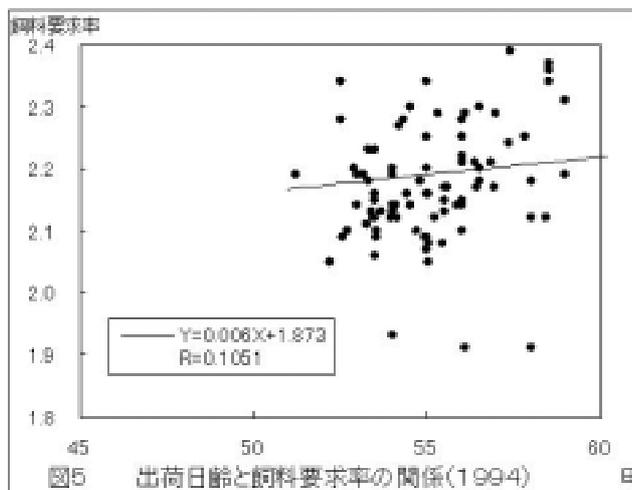
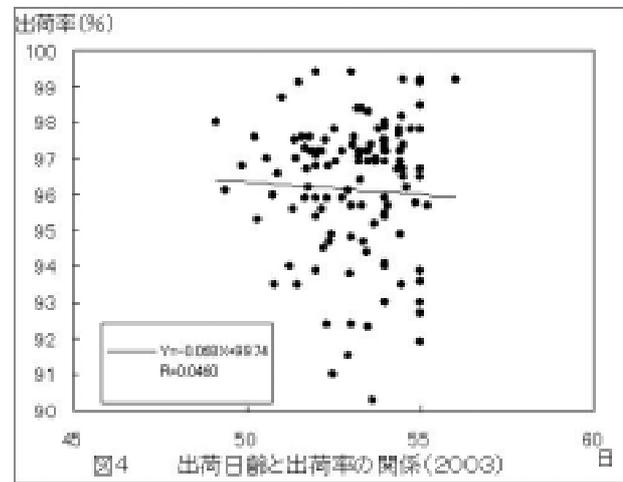
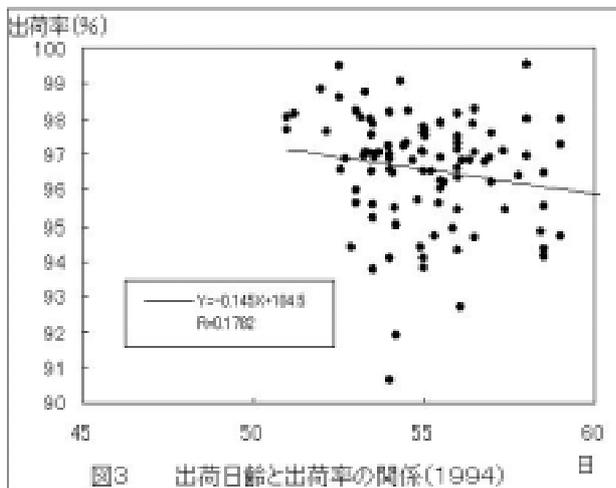
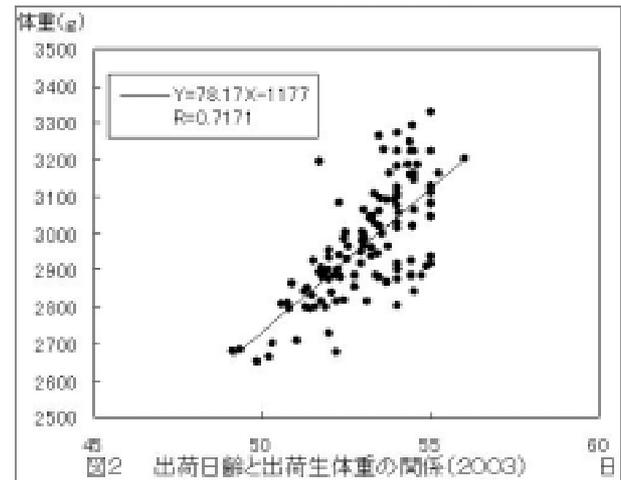
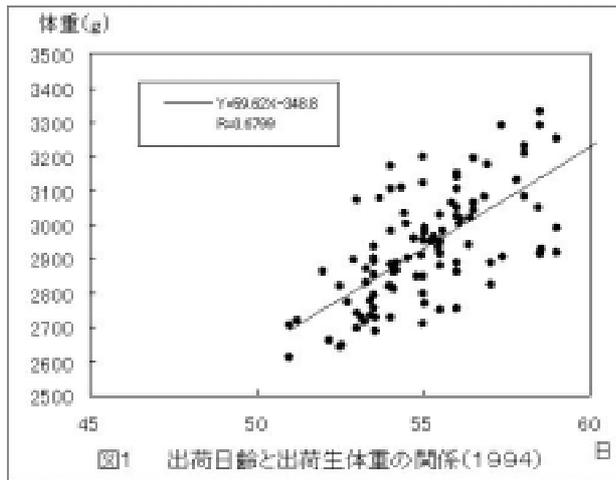
出品調書のデータから、出荷日齢、出荷生体重、出荷率、飼料要求率、生産指数、および規格品率の調査結果を表3に示した。また、出荷生体重、出荷率、飼料要求率、生産指数、および規格品率と出荷日齢の間における回帰分析結果を図1～10に示した。

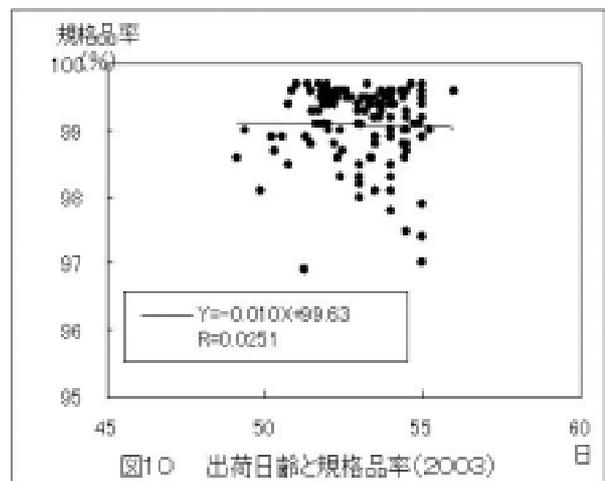
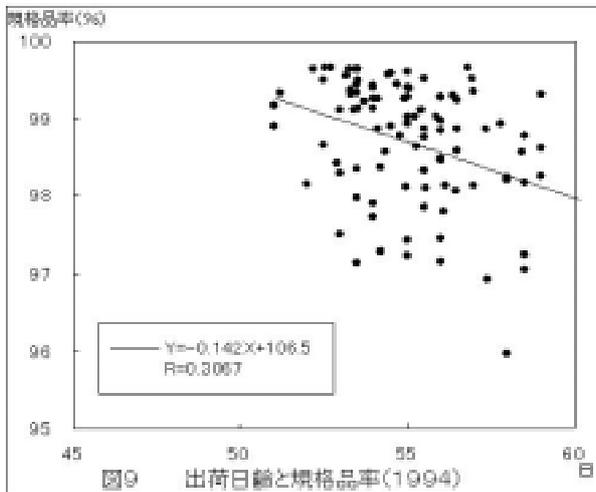
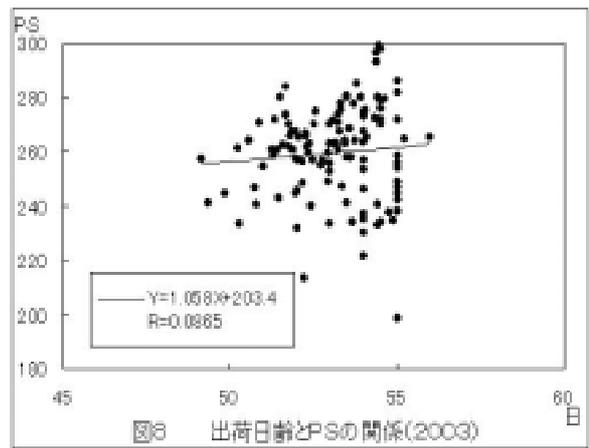
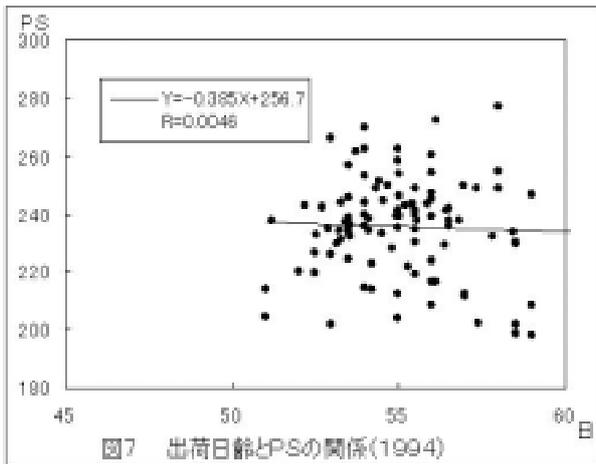
- (1) 出荷日齢は、1994年の55.1日から2003年の53.1日までの間に、2.0日間の有意な短縮を認めた。
- (2) 出荷生体重は、各年度とも2,970g前後で推移していた。
- (3) 出荷率は、各年度とも96.2%前後で推移していた。
- (4) 飼料要求率は、1994年の2.19から2003年の2.08までの間に、0.11の有意な向上を認めた。
- (5) 生産指数は、1994年の235.5から2003年の259.6までの間に有意な向上を認めた。
- (6) 規格品率は、1994年の98.7から2003年の99.1までの間に有意 (p<0.01) な向上を認めた。

表3 岡山県ブロイラー共励会出品成績

区 分	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
出品点数	100	101	101	115	107	124	120	120	120	121
出荷日齢	55.1a	55.7	55.6	55.2	54.4	54.6	53.8	52.5	53.4	53.1b
(日)	±1.9	±2.0	±1.7	±1.9	±1.7	±1.6	±1.9	±1.5	±1.7	±1.4
出荷生体重	2936	2960	3031	2982	2956	3044	2983	2920	2954	2978
(g)	±171	±192	±183	±202	±202	±170	±198	±178	±158	±153
出荷率	96.6	95.5	96.7	96.4	95.5	96.9	96.8	96.5	95.6	96.1
(%)	±1.6	±3.2	±1.4	±1.7	±1.8	±1.3	±1.5	±1.6	±2.3	±2.1
飼料要求率	2.19a	2.18	2.15	2.13	2.11	2.06	2.04	2.01	2.07	2.08b
	±0.11	±0.15	±0.08	±0.08	±0.06	±0.08	±0.06	±0.05	±0.09	±0.09
生産指数	235.5a	234.2	246.1	244.6	246.1	263.1	262.9	266.7	255.9	259.6b
	±16.8	±26.1	±14.2	±15.5	±9.2	±12.6	±9.9	±13.5	±14.5	±17.1
規格品率	98.7a	98.6	99.1	98.9	98.9	98.9	99.0	99.2	99.2	99.1b
(%)	±0.9	±1.6	±0.7	±0.5	±0.5	±0.7	±0.6	±0.5	±0.6	±0.6

\* 各調査項目の上段は各年度平均、下段は標準偏差を示す。  
1994年と2003年の各調査項目で検定を行ったところ、出荷日齢、飼料要求率、生産指数および規格品率において、有意差 (異符号間 p<0.01) が認められた。





### 考 察

岡山県産ブロイラーコマースの飼育期間は、ブロイラー種鶏の育種改良が進み増体速度が飛躍的に向上している<sup>3,4,5)</sup>中で、食鳥処理場での受け入れ体重がほぼ一定であるために、出荷日齢の短縮が進んでいると推察され、今回、分析した10年間では2.0日間の短縮となっている。出荷生体重および出荷率に有意な変化を認めないが、出荷日齢の短縮および飼料要求率の向上により、生産指数の大幅な向上が認められた。

表4 飼育管理マニュアルとの比較

区 分	飼育管理マニュアル		ブロイラー共励会	
	1991	2002	1994	2003
出荷日齢(日)	56	53	55.1	53.1
出荷生体重(g)	2820	3361	2936	2978
出荷率(%)	96.5	96.5	96.6	96.1
飼料要求率	2.12	1.92	2.19	2.08
生産指数	229	319	235.5	259.6

\*マニュアルデータは日本チャンキー協会の飼育管理マニュアルから作成

岡山県では、チャンキーブロイラーの飼育される割合が表2に示すとおり高い。そこで、飼育管理

マニュアル1991版<sup>6)</sup>および2002年11月改訂版<sup>7)</sup>から調査項目の推測値を試算し表4に示した。1994年は飼育管理マニュアル1991に近い成績が共励会では出ているが、2003年は飼育管理マニュアルの推測値には達していない結果となった。

### 謝 辞

本資料を作成するに当たり、分析用資料を提供していただいた岡山県養鶏協会、並びにチャンキーブロイラー飼育資料を提供していただいた㈱日本チャンキーに深謝いたします。

### 引用文献

- 1) 農林水産省生産局畜産部畜産企画課(2003)：畜産の動向
- 2) 岡山県養鶏協会(2000)：岡山県ブロイラー共励会要領
- 3) 奥村純一・藤原 昇(2000)：肉用鶏の飼養管理．家禽学，朝倉書店，89-98
- 4) 田先威和夫・山田行雄・森田琢磨・田中克英(1993)：ブロイラーの管理．新編養鶏ハンドブック，養賢堂，538-576
- 5) 中央畜産会(1990)：ブロイラー経営の経営改善指導指標
- 6) 日本チャンキー協会(1991)：チャンキー高品質ブロイラー生産の手引1991年版
- 7) 日本チャンキー協会(2002)：チャンキーブロイラー管理マニュアル2002年11月改訂版